

普及情報

分類名〔病害虫〕

情 7	<b>シアントラニリプロール・イソチアニル水和剤 （商品名：ミネクトブラスター顆粒水和剤）の 高密度播種苗におけるいもち病防除効果</b>
-----	---

宮城県古川農業試験場

## 要約

高密度播種苗においてシアントラニリプロール・イソチアニル水和剤の100倍500ml灌注処理は、箱施用剤の100 g 施用と同等のいもち病防除効果が認められた。

普及対象：水稲を栽培する生産者（68,000ha程度）  
普及想定地域：県内全域

## 1 取り上げた理由

水稲栽培における高密度播種苗のいもち病防除については、防除薬剤の種子塗抹処理，側条施用などの技術が普及しているが，育苗箱への灌注処理を採用した防除薬剤のいもち病防除効果を確認したため，普及情報とする。

## 2 普及情報

高密度播種苗に対しシアントラニリプロール・イソチアニル水和剤の100倍500ml灌注処理は葉いもち，穂いもちともに防除効果が高いことから（図1，2），いもち病防除剤として有効である。

- a 薬剤名 シアントラニリプロール・イソチアニル水和剤（商品名：ミネクトブラスター顆粒水和剤）
- b 有効成分 シアントラニリプロール15.0%（RACコード：28）  
イソチアニル40.0%（RACコード：P3）
- c 性状 類白色水和性細粒
- d 毒性 普通物

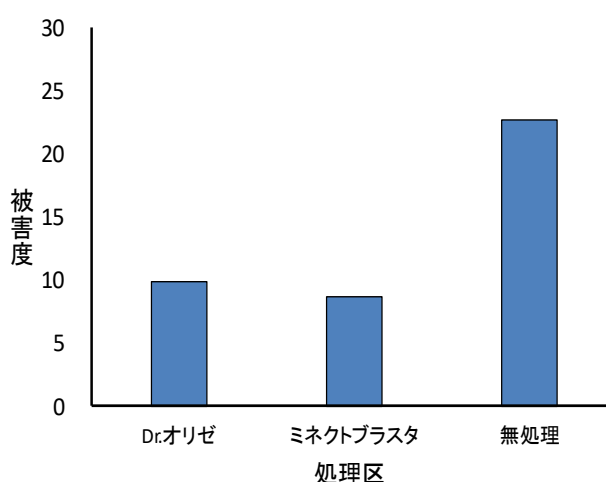
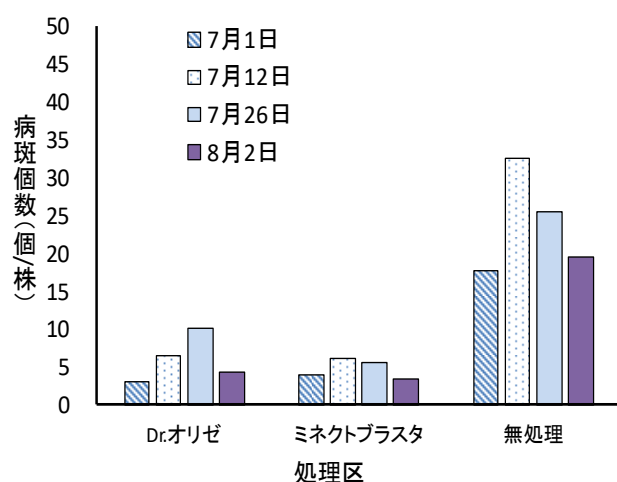


図1 高密度播種苗の葉いもち病斑個数

図2 高密度播種苗の穂いもち被害度

### 3 利活用の留意点

- (1) 令和2年度に収穫した「ひとめぼれ」種子を使用した。薬剤処理（イプロナゾール・銅水和剤 商品名：テクリードC, 200倍24h処理）を実施後に浸種（10℃10日間）し、催芽（29℃24h）後播種（高密度：乾籾250g）した。育苗器を用い29℃3日間で出芽した後、移植までパイプハウス内で管理した。育苗期間は約3週間であった。
- (2) 各処理区は3反復で実施し、対照の箱施用剤（クロラントラニリプロール・プロベナゾール粒剤、商品名：Dr.オリゼフェルテラ粒剤）は移植当日に100g/箱、灌注処理剤（シアントラニリプロール・イソチアニル水和剤、商品名：ミネクトブラスター顆粒水和剤）は移植3日前に100倍500ml/箱で施用した。
- (3) 穂いもち被害度は以下の数式により算出した（被害度 =  $a + b \times 0.66 + c \times 0.26$  a：穂首いもち b：枝梗いもち1/3以上 c：枝梗いもち1/3未満の発病穂率）。
- (4) いもち病発病促進のため、6月15日に伝染源を設置した。葉いもち多発生、穂いもち中発生の条件下で行われた試験である。
- (5) 本剤の使用に当たっては最新の農薬登録情報を確認する。  
(問い合わせ先：宮城県古川農業試験場作物環境部 電話0229—26—5107)

### 4 背景となった主要な試験研究

- (1) 研究課題名及び研究期間  
新農薬による病害虫防除試験（令和3年度）
- (2) 参考データ

表1 登録情報（いもち病のみ抜粋）

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
稲（箱育苗）	いもち病	200倍	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L) 1箱当り0.5L	は種時～移植当日	1回	灌注
稲（箱育苗）	いもち病	400倍	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L) 1箱当り1L	は種時	1回	灌注
稲（箱育苗）	いもち病	高密度には種する場合は50g/10a（育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5L）1箱当り2.5～5g（希釈倍数100～200倍））	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L) 1箱当り0.5L	移植10日前～移植当日	1回	灌注

- (3) 発表論文等  
なし
- (4) 共同研究機関  
一般社団法人日本植物防疫協会